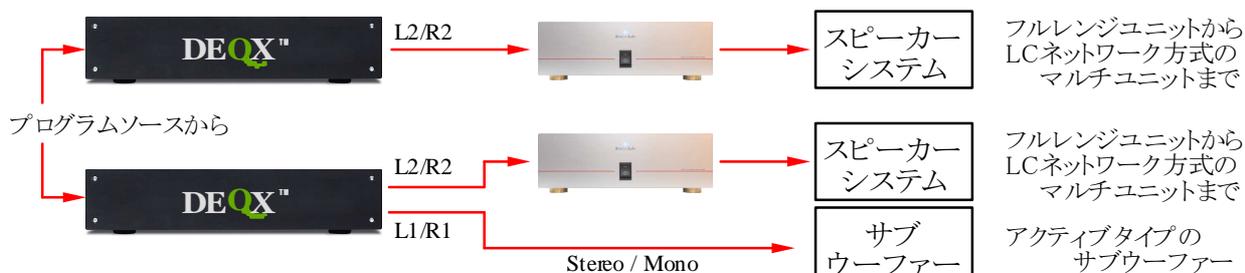


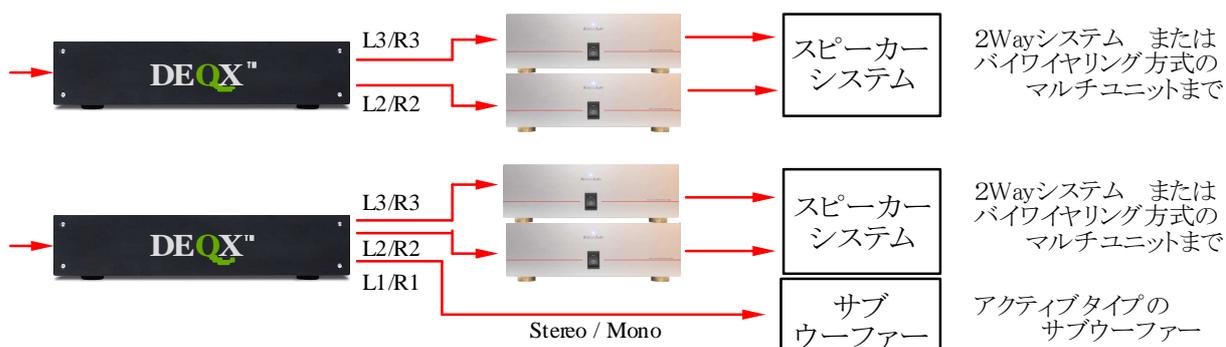
DEQXの使い方

■ スピーカーの駆動方式とDEQXの関係 - 1

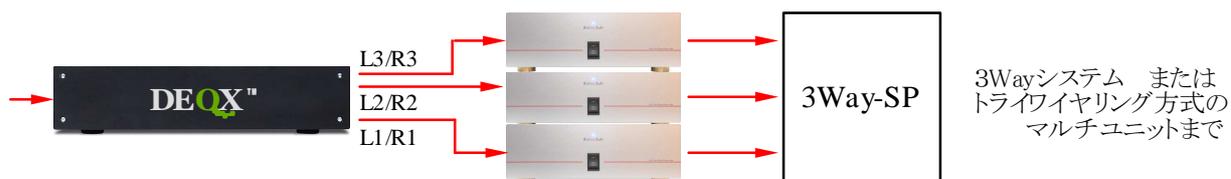
手持ちのスピーカーを活かす。新たに購入する。自作SPシステムを活かす。新たに創作する。DEQXは方式にかかわらず最良の結果をお届けします。さあ、一緒にチャレンジしましょう！



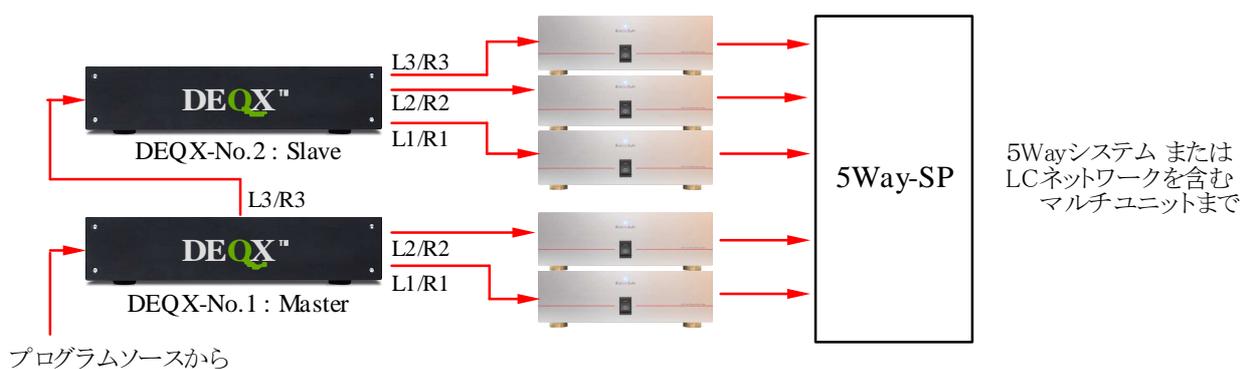
シングル アンプ
[図1] Single-Amp / Single-Amp + Sub Woofer



バイ アンプ
[図2] Bi-Amp / Bi-Amp + Sub Woofer



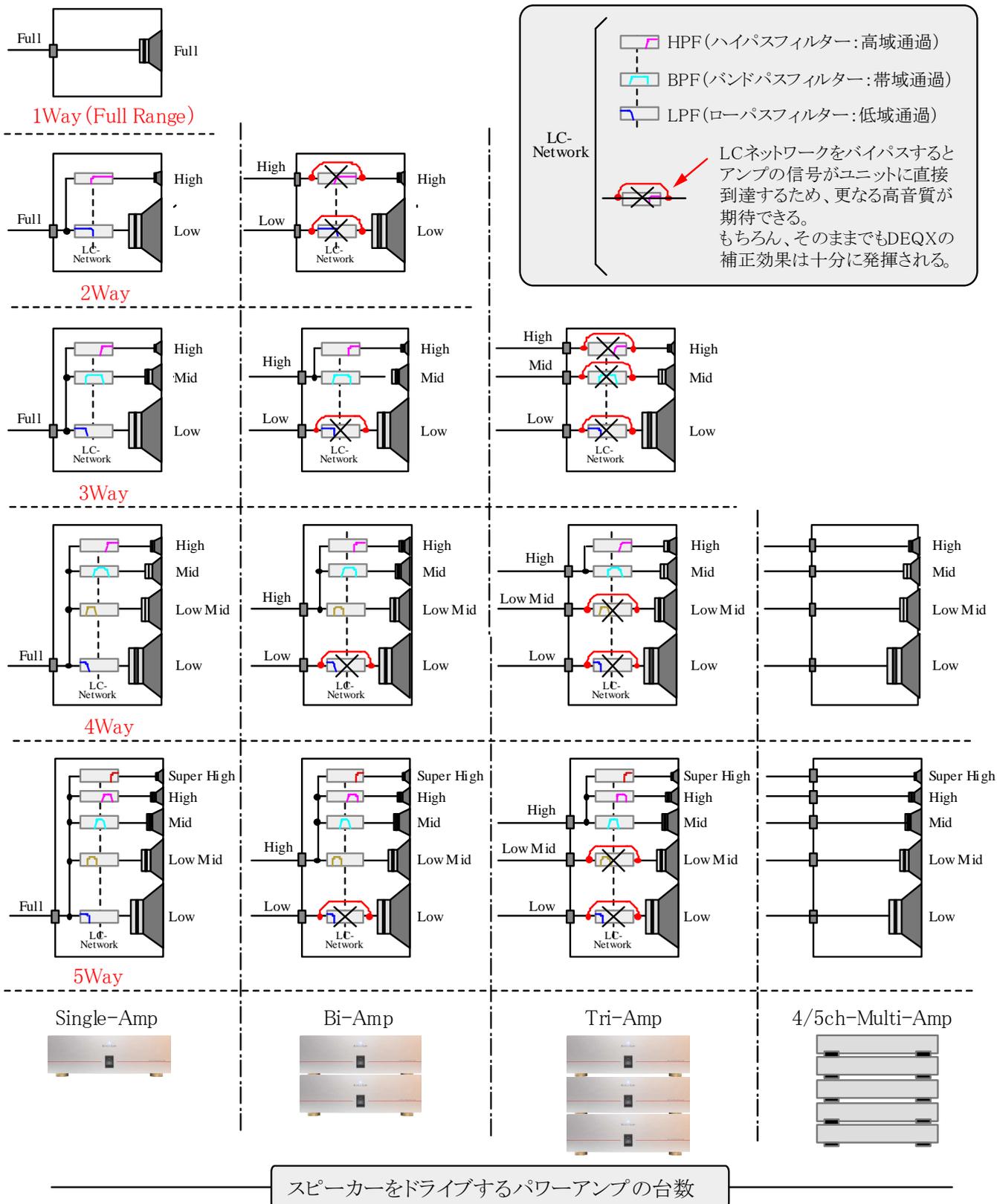
トライ アンプ
[図3] Tri-Amp



[図4] Tri-Amp × 2 (5Way-Multi)

■ スピーカーの駆動方式とDEQXの関係 - 2

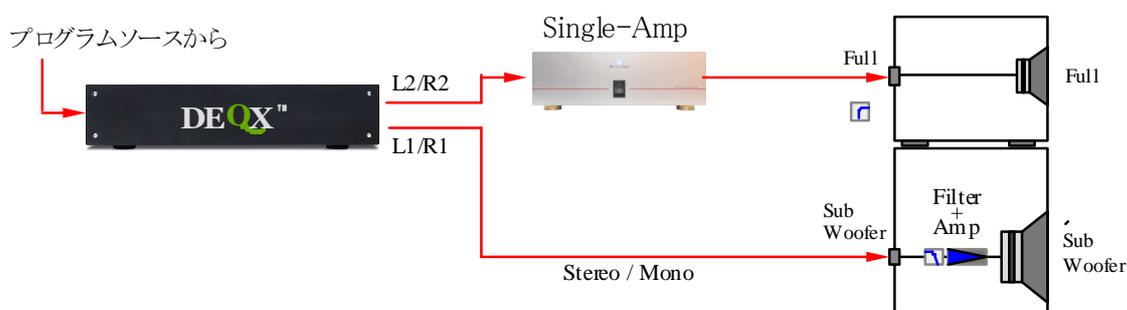
- ・スピーカーシステムは単純な構成のものから複雑なものまで実に多彩です。
- ・前ページではDEQXとアンプの関係を示しましたが、ここではドライブアンプの台数 (Single/Bi/Tri等) とスピーカーの関係の一例を示しています。



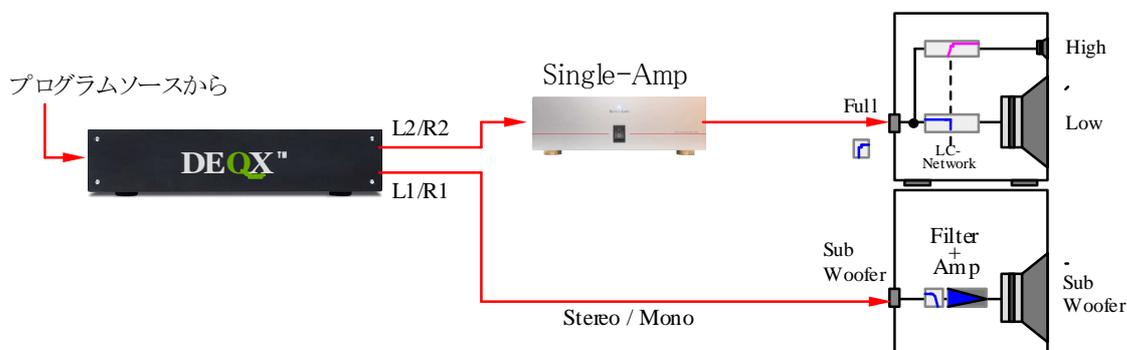
■ スピーカーの駆動方式とDEQXの関係 - 3

～ Sub Woofer(サブ・ウーファー)の利用 ～

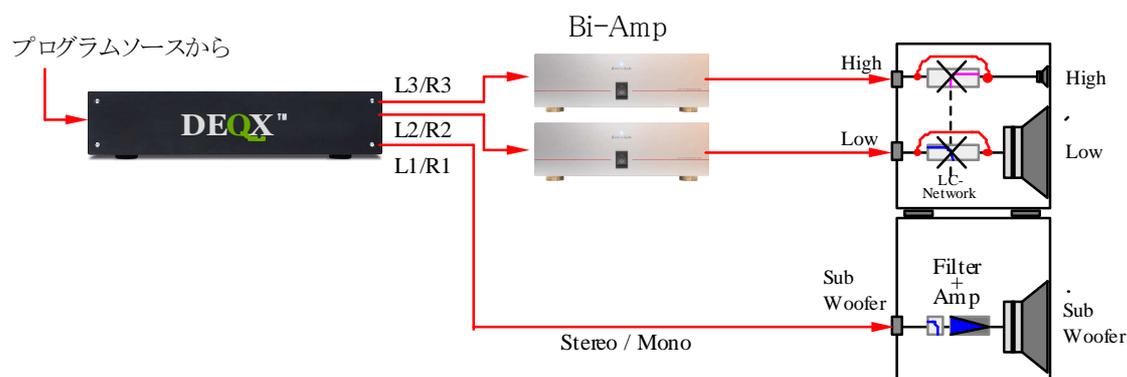
- スピーカーシステムの一つにサブ・ウーファーがあります。これは、主に100Hz以下の低域を専門に受け持つものです。
- 小型のフルレンジユニット一個で構成されたものがスピーカーの理想とされています。しかし現状では十分な低音が出ないため限定的な使い方になっています。
- この問題を解決するための手段としてサブ・ウーファーは有力な手段と考えます。
- DEQXはこのための仕組みを既に内蔵していますので簡単に利用することができます。
- 市販のサブ・ウーファーはパワーアンプを内蔵したのが多く、ここでもこのタイプを使った例を示していますが、外部にアンプを用意するタイプでも全く同様に考えることができます。
- サブ・ウーファーの音質を確保した上で積極的に推進していきたい方式だと考えています。



1Way (Full Range) + Sub Woofer



Single Amp + Sub Woofer



Bi amp + Sub Woofer